



世界遺産登録二十周年 熊野本宮大社御垣内参拝

御垣内は、普段入ることができない特別な場所。
熊野の大神様を間近に感じることができます。
参拝後には神職による社頭説明が行われます。

熊野への参詣道である「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて二十周年を迎えました。

古から人々の信仰の精神と奥深い自然の脅威、畏敬の念から育まれた三つの霊場、またそれをつなぐ祈りの道である参詣道は、世界に他に例がない文化的景観として二〇〇四年七月七日に蘇州で開催された第二十八回世界遺産委員会において、世界遺産として登録されました。

熊野古道は京都より本宮へと向かう紀伊路・中辺路、田辺より海岸沿いに進む大辺路の他に、真言密教の聖地高野山から本宮に至る小辺路、修験道の聖地吉野・大峯から本宮を経て那智に至る大峯奥駈道、国民の総氏神として皇祖神天照大神を祀る伊勢の神宮から至る伊勢路と全く別の宗教を結ぶ参詣道となっております。

そしてその中心となる「熊野本宮大社は」は、三つの霊場の一つである「熊野三山」のうちの一社であり、また全国四千七百社あまりある熊野神社の総本宮でもあります。神仏習合の聖地として、主祭神（素盞鳴尊）の本地仏が一切衆生を極楽浄土へと誘う阿弥陀如来である事も象徴的です。

御創建二千五十五年を迎える今もなお世界遺産登録二十周年と新たな歴史を刻む、ここ熊野本宮が蘇りの地、魂が帰る場所として、永遠に皆様の心において続ける特別な聖地である事を、この瑞垣内参拝から体験して下さい。

〈熊野権現をより近くに体感〉